

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/05/01

引き続き米国の利上げ時期に注目

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➔	各指標結果を確認 予想レンジ: 118.000 ~ 122.100 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➔	原油相場反発と加経済の回復睨み 予想レンジ: 96.500~102.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

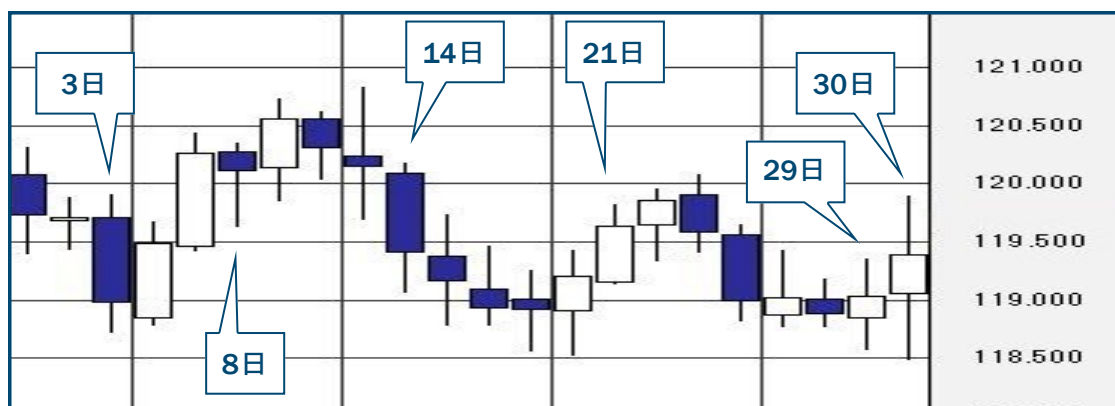
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 4月の推移

USD/JPY

4月のドル/円相場は118.494~120.842円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.6%の下落(ドル安・円高)となった。

ドル/円は3月時点で後退していた6月利上げ観測をさらに後退させるかのような米3月雇用統計の結果を受けて軟化。しかし、市場では単月の雇用統計の弱い結果は問題にならないとの見方が広がり、ドル/円は切り返した。ただ、米指標結果に冴えないものが続き、国際通貨基金(IMF)による米国の成長率下方修正などがあり、再び軟化。その後も、6月利上げ観測の可能性が「低いものの、完全には否定できない」という状況の中で大きな動きが出ず、ドル/円はもみ合いに終始した。



四本値

OPEN	120.081
HIGH	120.842
LOW	118.494
CLOSE	119.393

3日	米3月雇用統計は失業率が事前予想通りの5.5%、非農業部門雇用者数は12.6万人に人増(予想:24.5万人増)、労働参加率62.7%(同:62.8%)、平均時給は前月比+0.3%(同:+0.2%)と、マチマチの結果となった。ただ、市場は非農業部門雇用者数の伸びの大幅な減速を嫌気し、ドル/円は118.724円まで値を下げた。
8日	日銀が金融政策の現状維持決定を発表すると、一部で緩和期待があった反動等により小幅に円高が進行した。ただし、FOMC議事録が公表され「数人の参加者が、今後発表される経済指標で6月利上げが正当化されるだろう」「米国の経済成長は鈍化したものの、ドル高や原油安の影響が和らぐに連れて、インフレ率と失業率が米連邦準備理事会(FRB)の目標に向けて、引き続き改善するだけの十分な底堅さがある」などとあった事から、ドル/円は下げ幅を縮小した。
14日	浜田内閣官房参与が「1ドル120円程度は許容範囲」などと発言。前日に「円安は徐々に限界に近付いている。125円、130円と思っている人は注意が必要」などと述べて円高で反応した反動で、ドル/円は一時上昇。しかし、その後に発表された米3月小売売上高が前月比+0.9%と市場予想(+1.1%)を下回った事、国際通貨基金(IMF)が世界経済見通しを発表し、米国の2015年の成長率予想を下方修正(+3.6%→+3.1%)した事を受けてドル安が進むと、119.072円まで下落した。
21日	日経平均先物が20000円台に乗せるなど上昇した事に加え、浜田内閣官房参与が「追加緩和はCPIコアコアで達成出来ないなら必要」と述べた事を受けて一時円売りが強まった。
29日	米1-3月期国内総生産(GDP)・速報値が前期比年率+0.2%と市場予想(+1.0%)を大幅に下回った事を受けて軟化し、118.581円まで下落した。ただ、その後に米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明で、政策金利の維持を発表。「冬季の経済成長の減速は一過性の要因を一部反映」「広範な労働市場の指標は労働資源の未活用が変わらない事を示唆」「エネルギー価格や非エネルギーの輸入価格の下落が一部影響し、インフレは長期的目標を下回り続けている」などとしており、景気判断は下方修正されたものの、「労働市場の改善が見られ、インフレが中期的に目標の2%に向かうと合理的な確信が持てた時、金利引き上げが適切であると予想」との文言を維持し、6月利上げの可能性を残す内容だった事から、発表後のドルは買い優勢に転じた。
30日	日経平均が安寄り後も下値を切り下げる流れになる中でドル/円は下落。日銀が金融政策の据え置きを発表すると一部に追加緩和期待があった反動で円高が進行した。しかし、下げ一服後は反発。米新規失業保険申請件数が26.2万件と市場予想(29.0万件)よりも強い結果になるとドル/円は上値を伸ばし、119.894円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.5630%
HIGH	0.6104%
LOW	0.4596%
CLOSE	0.5670%

米10年債利回

OPEN	1.9292%
HIGH	2.1081%
LOW	1.8002%
CLOSE	2.0317%

日経平均

OPEN	19129.75
HIGH	20252.12
LOW	18927.95
CLOSE	19520.01

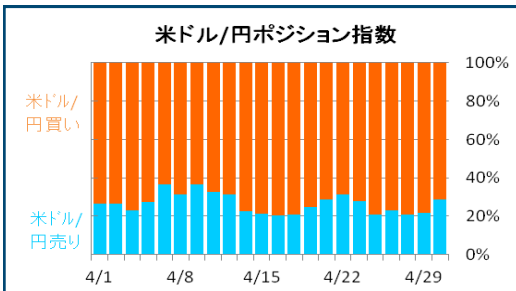
NYダウ平均

OPEN	17778.52
HIGH	18175.56
LOW	17585.01
CLOSE	17840.52

4月のポジション動向

5月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)



- ・米4月雇用統計(8日)
- ・日3月経常収支(13日)
- ・米4月小売売上高(13日)
- ・日1-3月期GDP・一次速報(20日)
- ・日銀金融政策決定会合(21~22日)
- ・米4月消費者物価指数(22日)
- ・日4月通関ベース貿易収支(25日)
- ・日銀会合議事要旨(27日)
- ・米1-3月期GDP・改定値(29日)
- ・日4月全国消費者物価指数(29日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言

5月の見通し

4月のドル/円相場は方向感に乏しい状態だった。現在のところ、日銀は物価の見通しに変化が見られない限り追加の金融緩和を行わないとする姿勢を崩しておらず、ドル/円の方向感の頼みの綱は米国の材料であったが、米国についてもここ数カ月の経済指標結果に弱めのもが目立ち、市場の利上げ開始時期の予想は9月に後退。ただし、FOMC声明では6月利上げの可能性を残す形となっており、ドルは円に対して上昇するも下落するもエネルギー不足の感が強かった。

米国の利上げ時期やペースについて、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長はあくまで「経済データ次第」と述べており、市場は次回の6月FOMCまで経済指標結果や要人発言を1つ1つ確認していくしかない形になっている。従って、よほど経済指標結果が良い方、もしくは悪い方に偏らない限り、6月に入ってから発表される米5月雇用統計などの重要指標が気になってポジションを傾ける意欲が湧きにくいと考えられる。よほど、日米金融政策以外の目新しい要素に金融市場の関心が移るような事が起こらない事には、ドル/円の方向感はずらいと考えられる。

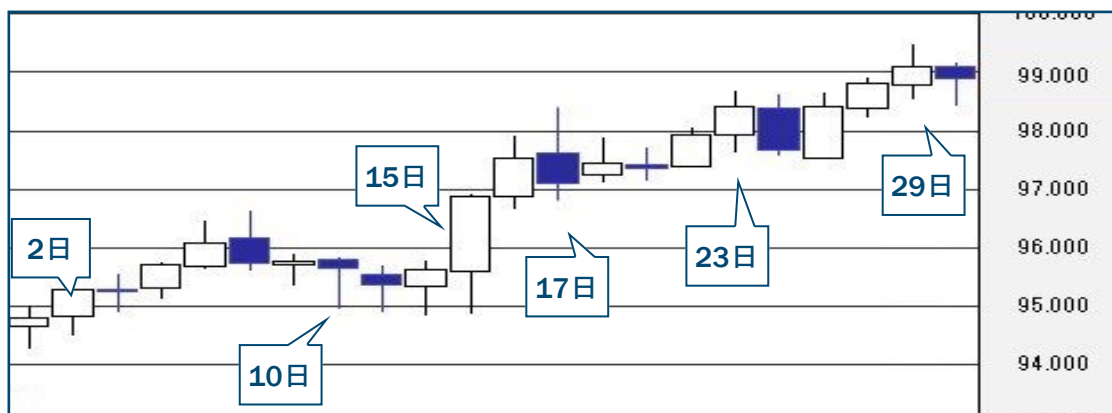
ドル/円の場合、下げた場合は2月中旬以降のサポートラインとなっている118.30円前後がまずは目処となろう。また、上昇した場合は、4月高値120.842円、3月高値122.022円が順次ターゲットとなろう。(石川)

(予想レンジ: 118.000~122.100円)

カナダ/円 4月の推移

CAD/JPY

4月のカナダ/円相場は94.300～99.475円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.4%の比較的大幅な上昇(カナダドル高・円安)となった。資源国通貨らしく、カナダドルは原油相場(月間25%上昇)の反発と歩調を合わせるように上昇した。また、雇用統計など、多くの主要景気指標が改善しており、カナダ景気に持ち直しの様子が窺えた事もカナダドルの上昇に拍車をかけ、カナダ/円は29日には1月12日以来約3カ月半ぶりの高値(99.475円)を付けた。



四本値

OPEN	94.679
HIGH	99.475
LOW	94.300
CLOSE	98.903

2日	加2月国際商品貿易収支が、9.8億カナダドルの赤字と予想(20.0億カナダドルの赤字)より強かったことからカナダドルが上昇。欧米株価がしっかりの展開となった事も支援材料となり95.30円台まで上昇した。
10日	加3月住宅着工件数が18.97万件と予想(17.50万件)を上回ったのに続き、加3月雇用統計では失業率が6.8%(予想:6.9%)、雇業者数ネット変化が2.87万人増(予想:増減なし)という強い結果となった。欧州通貨や資源国通貨に対して円買いが活発化する中で一時95円台を割り込んでいたカナダ/円は、これらを受けて95円台半ばまで値を戻した。
15日	カナダ中銀(BOC)は政策金利を0.75%に据え置き、声明で「原油下落の影響は年後半には消える」とした上で2015年4-6月期と7-9月期の成長見通しを上方修正した。声明がタカ派的と受け止められた事に加え、WTI原油先物が56ドル台に上伸した事から96.917円まで上昇した。
17日	加3月消費者物価指数が前年比+1.2%と予想(+1.0%)を上回り、エネルギーや食品など変動の大きい品目を除いた指数は前年比+2.4%に加速(予想、前回ともに+2.1%)した。さらに、加2月小売売上高が前月比+1.7%と予想(+0.5%)を大きく上回った。カナダ/円はこれらを受けて98.40円台まで上値を伸ばした。しかしその後、NYダウ平均が300ドル近く下げた上に、WTI原油先物がこの週の上昇に対する調整を強めて55ドル台まで反落したため、急速に96.80円台まで軟化した。
23日	ギリシャ問題の進展期待から市場のリスク志向が改善する中、サウジアラビアによるイエメン反政府勢力への空爆再開を受けてWTI原油先物が58ドル台へ上伸。これらを受けてカナダ/円は1月20日以来、約3カ月半ぶりの高値となる98.675円まで上値を伸ばした。
29日	原油や鉄鉱石など資源価格の持ち直しが続く中、米1-3月期国内総生産(GDP)・速報値が予想を大きく下回るとドル安・カナダドル高が進行。これに連れてカナダ/円も上昇し、99.475円の高値を付けた。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	1.350%
HIGH	1.657%
LOW	1.261%
CLOSE	1.581%

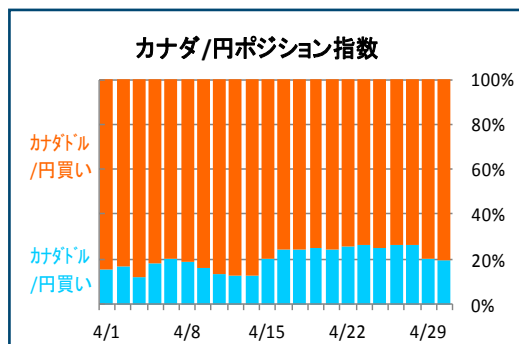
N Y 原油

OPEN	47.55
HIGH	59.85
LOW	47.05
CLOSE	59.63

NYダウ平均

OPEN	17778.52
HIGH	18175.56
LOW	17585.01
CLOSE	17840.52

4月のポジション動向



5月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・3月加国際商品貿易収支(5日)
- ・4月加住宅着工件数(8日)
- ・4月加雇用統計(8日)
- ・1-3月期日本GDP一次速報(20日)
- ・日銀金融政策決定会合(21-22日)
- ・4月加消費者物価指数(22日)
- ・3月加小売売上高(22日)
- ・4月日本通関ベース貿易収支(25日)
- ・加中銀政策金利発表(27日)
- ・4月日本消費者物価指数(29日)
- ・3月加GDP(29日)
- ・1-3月期加GDP(29日)
- ・原油相場など国際商品価格

5月の見通し

カナダ中銀(BOC)が、4月15日の理事会でインフレ警戒の姿勢をにじませたことから、BOCの次の一手は「利下げではなく利上げ」という見方が一部で浮上している。原油価格の持ち直しが鮮明となる中で、5月のカナダ/円相場は当面堅調を維持すると見られる。テクニカル分析の観点からも、昨年12月高値(106.496円)から今年1月の安値(91.728円)まで下落した値幅の半値戻し(99.112円)を達成した事で12月高値の奪回に向けた動きが加速する可能性が浮上。そうした動きを後押しするためには、引き続き原油相場の上昇に加え、カナダ景気の回復継続が欠かせないと考えられる。なおポロズBOC総裁は、4月28日に行った議会証言で「前向きな動きが4-6月期に顕在化する」と発言しており、8日の4月住宅着工件数や4月雇用統計の他、22日の4月消費者物価指数とは特に注目される。これらが良好なら、気の早い筋からは利上げ期待のカナダドル買いが流入する可能性もあろう。(神田)

(予想レンジ: 96.500~102.000円)